

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	2693200020
法人名	医療法人 啓信会
事業所名	グループホーム リエゾン健康村
所在地	〒610-0343 京都府京田辺市大住大坪55-14 (電話) 0774-68-1766

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価確定日	平成21年12月9日

【情報提供票より】(平成21年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 10 月 11 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 5 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 5.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇有(25万 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	650 円
	夕食	550 円	おやつ	110 円
	または 1日あたり 円			

(4) 利用者の概要(10 月 31 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 73 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都きづ川病院 米田歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京田辺市の静かな住宅街にある新築の2階建ての2階がグループホームである。開設3年目になり、地域住民にも認知されてきており、「いつも窓から手を振っていた人は最近見かけませんが、お元気ですか」などの声かけがある。地域からの友人、知人、隣人の来訪は多く、地域のボランティアも数多く来訪し、利用者にとっては生活のなかの大きな楽しみである。肩肘はったボランティアではなく、気軽に一緒に楽しむという姿勢が素晴らしい。家族も預けっぱなしではなく、誕生日に連れて帰る人もあり、面会も多い。今後はホームと共にホームの運営に参加していただける期待がある。昨年の評価結果を真摯に受け止め、改善への努力が目覚ましい。30歳代と50歳代が中心になっている職員はグループホームのケアについて前向きに取り組んでいる。食事の大切さを認識し、ホームでつくる回数を増やし、買い物などの個別外出に取り組むなど、サービスの向上への意欲が大きい。利用者はみんな個性豊かな人で、今後は利用者の力も運営に反映され、グループホームとしての1つのモデルを提供することが期待される。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の評価で指摘された点として、独自の理念の策定、食事づくりの回数を増やしたこと、個別外出の実施、記録のつけ方の改善等に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の評価受審は職員がグループホームに求められていることを理解し、認識するのに役に立ったという。今回も自己評価は職員全員に書いてもらって、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、地区の区長、民生児童委員、老人会会長、京田辺市健康介護課職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、詳細な記録が残されている。地域の情報交換や地域での高齢者の問題など、活発な意見交換が行われている。希望があり、運営推進会議で認知症の研修を実施している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からはもっと外出させてほしい、家事をさせてほしい等々の意見がでており、対応している。琵琶湖へのドライブは家族にも来てもらい、家族同士の交流ができ、今年には食事会を計画している。家族と共にホームの運営ができるように取り組む予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、散歩や買い物の際に近所の人とあいさつしている。利用者の知人や友人、隣人などが来訪してくれる。三味線、アコーディオン、ピアノ、踊り、大正琴等々のボランティアが演奏に訪れる。傾聴や利用者とのカルタ遊びなどのボランティアの来訪もある。小学校のブラスバンドが演奏に来てくれるので、利用者はお返しにハンドベルの練習をしている。市民文化祭には利用者が見つけた作品を出展している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をふまえて、グループホームの理念を職員が話し合って策定している。それは「笑い、笑わせ、楽しい毎日」であり、居間に掲示している。家族にも面会するときなどに話して啓発している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務のなかで、また会議などで、職員は常に理念を振り返り、仕事の点検をしている。利用者に笑ってもらうためには自分が楽しく仕事をしなければならないので、心身ともにいい状態にもっていくようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、散歩や買い物の際に近所の人とあいさつしている。利用者の知人や友人、隣人などが来訪してくれる。三味線、アコーディオン、ピアノ、踊り、大正琴等々のボランティアが演奏に訪れる。傾聴や利用者とのカルタ遊びなどのボランティアの来訪もある。小学校のプラスバンドが演奏に来てくれるので、利用者はお返しにハンドベルの練習をしている。市民文化祭には利用者が見つけた作品を出展している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価受審は職員がグループホームに求められていることを理解し、認識するのに役に立ったという。今回も自己評価は職員全員に書いてもらい、管理者がまとめている。昨年の評価で指摘された点として、独自の理念の策定、食事づくりの回数を増やしたこと、個別外出の実施、記録のつけ方の改善等に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地区の区長、民生児童委員、老人会会長、京田辺市健康介護課職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、詳細な記録が残されている。地域の情報交換や地域での高齢者の問題など、活発な意見交換が行われている。希望があり、運営推進会議で認知症の研修を実施している。		

グループホーム リエゾン健康村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京田辺市が開催する認知症キャラバンメイトの研修会に参加している。運営推進会議のメンバーに対して認知症の研修を実施している。今後は介護教室、福祉用具の説明会等々、幅広い取り組みを、市との共催で実施することが期待される。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎週来る人から毎月来る人まで家族の面会は多く、その際に情報交換している。介護計画のモニタリングは家族参加のもと毎月行っている。ホームで撮った写真は家族にさしあげている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からはもっと外出させてほしい、家事をさせてほしい等々の意見がでており、対応している。琵琶湖へのドライブは家族にも来てもらい、家族同士の交流ができ、今年は食事会を計画している。家族と共にホームの運営ができるように取り組む予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの職員と利用者は馴染みの関係が大事なので、法人内異動はなるべく避けてほしいと法人には言っている。今年度少し異動があったが、利用者へのダメージがないように引継ぎなどに配慮している。新任職員にはまず利用者との信頼関係を築くように指導している。安易な退職を防ぐために、働きやすい職場にしたいとシフトの希望には応じること、懇親会を開催し気軽に話ができる関係づくりを目指している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リエゾン健康村全体として勉強会の計画を作成し、そこには新任研修、医学知識、接遇、介護技術、介護計画、栄養、認知症、口腔ケアなどが盛り込まれている。外部研修は受講されていない。資格取得に対しては法人内のヘルパースクールに通う。職員一人ひとりの課題設定も不十分である。	○	今後のグループホームの大きな発展充実を考えたとき、職員の育成は欠かせない。一人ひとりの職員が年に1回しないし2回は自己評価し、それに基づいて次の目標をたて、ホームとしてその課題を支援することが求められる。また全国フォーラムなどの参加は職員を大きく成長させるので、実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京田辺市が主催して地域密着型事業所連絡会があり、隔月に開始される会議に管理者は参加し、情報交換している。参加している事業所の持ち回りで会場が決められるので、管理者は他の事業所を見学しているが、職員は他のグループホームを見たことがない。	○	他のグループホーム、とくに他の法人のグループホームを見学することは職員にとっては大きな研修となるので、交換研修などの形で実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては利用者本人と家族には必ず見学を勧めている。見学に来たときに他の利用者が「待っているよ」と声をかけてくれる。先に小規模多機能ホームを利用してからグループホームの利用という方法もとっている。入居してからも希望があれば何度も自宅との往復をしてもらうように支援している。新しい利用者には職員が常に寄り添うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者がやってきたことや好きなことについては生き生きと話をすること見て、利用者のことを深く知って支援したいと考えている。安心した生活のなかで楽しみを提供したいと模索している。利用者が家事可能なことに驚き、生活の知恵などを教えてもらっている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用が決まると管理者とケアマネジャーが訪問面接し、利用者や家族の意向を聴き、利用している介護保健サービスや医療情報等を収集している。利用者や家族から聞き取りした種々の記録を東京センターシートに残している。生活歴は簡単ではあるが聴取されている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員制をとっており、聴取した情報をもとにケアマネジャーと担当職員が意見を出しあって介護計画を作成し、他の職員に確認してもらっている。利用者の生活歴は簡単ではあるが聴取されているので、それを介護計画に反映することが重要であるにもかかわらず不十分である。また介護計画が利用者それぞれに個別・具体的になっているかという点も不十分である。	○	利用者の介護計画は聴取した情報を十分に活かし、ケアマネジャーと担当職員のみならず、職員全体の意見を聞き、利用者それぞれに個別で、具体的なものであり、生活の楽しみを含んだものにすることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の毎日の記録はバイタル、食事摂取量、入浴、排泄等が残されている。介護計画のモニタリングは毎月ケアマネジャーの意見を聞き、担当職員が実施している。しかし、支援経過記録は介護計画の項目にそって書かれていないので、モニタリングの根拠がわかりにくい。	○	支援経過記録は介護計画の項目にそって、実施したかどうか、実施したときの利用者の表情や発言、拒否などで実施できなかったときにはその理由などを記録に残すことが望まれる。

グループホーム リエゾン健康村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が行きつけの理容店や美容院は、店の人が迎えに来てくれるところもあり、利用者は喜んで利用している。法人は職員採用や人事、研修等で支援してくれる。研修は独自で実施することはむずかしいテーマもあり、職員のモチベーションにつながっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のこれまでのかかりつけ医を大事にし、内科、歯科、認知症医等、受診は家族にお願いしている。ホームが把握している情報は文書にして家族に渡し、医師に伝えている。家族とともに職員も同行したり、家族からの希望があれば同行している。退院時にはサマリーを入手している。相談できる認知症専門医を確保することが期待される。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の希望があれば、重度化対応やターミナルケアを実施する思いはもっているが、明文化された方針はない。現在のところはまだ利用者や家族の意向確認もできていない。	○	現在、利用者はお元気であるとしても、ホームとしての方針を職員の話し合いにより決定し、明文化すること、その方針をもとに利用者や家族の意向確認をすること、重度化対応やターミナルケアのマニュアルを作成し、職員研修をすることが求められる。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室もトイレも中から鍵をかけることができ、かける利用者もいる。トイレ誘導などの声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床も就寝も利用者の自由であり、今日は起きたくない、朝食が遅くなる人もいる。夜も「眠れない」という人には職員が寄り添って話しなどを行っている。外出やレクリエーションの際も参加したくない人もあり、自己決定を尊重している。		

グループホーム リエゾン健康村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は業者の配達を利用しているが、朝食、夕食と土日や祭日の昼食は利用者とともに献立を考え、買い物に行き、つくっている。利用者のなかに料理を楽しみにして喜んでつくっている人がある。鍋物も楽しんでいる。近くのレストランや喫茶店での外食も楽しんでいる。職員は一緒に食事していない。	○	食事は職員も共に同じ食卓で食べ、利用者を会話することによって楽しい雰囲気をつくることが望まれる。また、食事中に職員が立って見守りをしていることは利用者の尊厳という点で配慮することが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を目標に支援しており、希望があれば毎日でも入浴することができる。夜間入浴は職員体制からできていない。マンツーマンの同性介助である。ゆず風呂も楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物干し、調理や下ごしらえ、炊飯器のスイッチを入れる、広告のチラシでゴミ箱を作る等々、利用者のできることで役割を果たしている。縫い物、編み物、貼り絵、ちぎり絵、塗り絵、絵を描く等の楽しみを支援している。ボランティアの踊り、和太鼓、三味線、ピアノなどの演奏は利用者の楽しみである。おやつ作りなどはわいわいと楽しい雰囲気できている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園への散歩や買い物などの外出は毎日でもかけている。宇治植物園内のレストランでお茶をしたり、外食にもかけている。八幡市体育館へお弁当をもってドライブして花見、城陽の花菖蒲園、甘南備山、菜の花公園など季節ごとのお出かけをしている。家族と一緒に琵琶湖へ出かけ、ホテルのバイキングを食べるドライブも実施している。利用者が住んでいたところを見たいという希望で個別外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の玄関ドア、エレベーター、階段等は開放されている。グループホームの玄関ドアがキーロックになっており、利用者は開けることができない。	○	認知症の利用者にとって、鍵をかけることのダメージについて、職員間で十分話し合い、鍵をかけずにケアすることの方法を探ることが求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関する消火器、感知器、通報機等は備えられ、防火管理者の設置、消防計画の作成等も実施している。備蓄の準備もある。避難訓練は夜間想定も含めて実施しており、2階の非常階段から利用者をどのように屋外に連れ出すかの訓練も実施している。今後は地域住民がどのように協力してくれるのか、運営推進会議等で話し合うことが期待される。		

グループホーム リエゾン健康村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量と水分摂取量の記録を残している。法人の管理栄養士が月に1回、検食し、栄養バランスなどについてもコメントを書いてくれる。献立のカロリー値を事業所としても把握しておくことが期待される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の玄関ホールからエレベーターと階段により2階に上ると、グループホームの玄関ドアとなる。居間兼食堂は明るく、おちついた雰囲気である。全面ガラス戸から公園や山の風景を見ながら、利用者はくつろいでいる。観葉植物の鉢や卵から育てたメダカの水槽などをおき、壁には行事の際の利用者の写真、利用者がつくったちぎり絵の大きな額、フラワーアレンジメントの花籠などが飾られている。その奥の廊下の両側に浴室、トイレ、居室などがあり、廊下に椅子を置き、居間以外でも過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間で、ベッドを置き、たんす、衣装かけ、整理棚、ソファ等々を、利用者が持込むことにより、部屋で過ごせるようにしている。棚や壁には家族の写真、ぬいぐるみ、本、テレビ、時計、マスコットなどで飾り、自分らしい部屋をつくっている。かつて趣味として描いていた絵の額をかけている人もいる。		